

かくれた力がいっぱい
学校法人中沢学園 会津若葉幼稚園

[5歳児]

<事前の様子>保育者が読む『いやいやえん』の絵本の中の“くじらとり”のストーリーに興味をもち、大型積み木で舟、段ボールでくじら、広告紙で釣竿と必要な物を自分たちで作り、クラスみんなが楽しんでいた。くじらとりごっこが始まってからしばらくして、「本の中の舟は、積み木で作っても海へ行って動くのに、この舟は動かないね」「動く舟が作りたいな」とA児が言った。それがきっかけとなり、今度は「動く舟を作ろう！」という気持ちが盛り上がり、舟作りが始まった。

■ 試行錯誤の経験を生かしてそれぞれの子が自分なりの方法で舟を動かして遊ぶ。

「手で水を掛けた」「息でフーフーして」「ストローで吹くといいよ」「絵本でパタパタした」「うちわでやったら、すごい進んだよ」

■ 自分の方法をみんなの前でやってみる。互いに教え合うようになってくる。

「ぼくと同じやり方だ！もっと下でパタパタした方がいいよ」
「本当だ！早く進んだ。ありがとう」

■ 動く舟ができて喜ぶ友達の“プロペラ付の舟”を見て、興味を深める。

A児「ぼくのはすごいんだよ！見て見て、みんなは自分で舟を動かしてるけど、ぼくの舟は触らなくても動くんだよ！！見てて～（何度も見せる）」
「すごい！いいな～。動いた！見せて。どうやったの？もう1回」
「Aくんのは何で動くのかな？」「どんな風になっているか、よく見せて」
「プロペラがクルクル回って進んでる」「グルグルにしたゴムが回ってた」



<舟が動いた時、「動いていたもの」を考えて出てきたこと>

私の手・水（水をかけたから）・息（フーフーして疲れたけど）・絵本・うちわ・うちわの風・グルグル巻き of ゴム・プロペラがクルクル回った

■ 舟を動かす力について話し合う。

「そうか！何かが動いているから舟が動くんだ！」「ほんとだ～」「動いている時は、舟も動く！」
「疲れてやめたら、舟も止まった」「ゴムのグルグルがなくなって」「プロペラが止まって、舟が止まったんだ」
「舟を動かすには力があるんだよ」
「自分の力。手とか息とか力出したもん」「水の力。水が舟を押しているんだよ」「ゴムの力。プロペラの力」「うちわの力」
「風の力」「え～風は違うんじゃない？」「だって分かんないもん、風って」
「見たよ！だから舟が動いたし…」「見えないけど進んだから、見えるんだよ」
「うんうん、かくれんぼしてたね～」「“かくれていた力” 見つけたね」

■ いろいろな場面で、かくれた力を感じている。

～砂遊びで

水をかけてから、たたくと山が硬くなるんだよ！
水を上からかけると、砂が崩れる！

砂の上は白くて小さい石があるけど、下の砂はサラサラしていて黒いんだよ。
泥団子を作るのは、サラサラの砂のほうがツルツルになるからいいよ！

～外遊びの時に

日陰は、太陽の光から守ってくれるんだよ！
涼しくしてくれる！

サラサラの砂で泥団子を作るよ！



風や太陽など当たり前存在している自然のことを舟の動力や温水、竹とんぼ、発電など、子どもたちが実際に見たり、触れたりできるものに置き換えられたことで、『かくれた力』に気付くことができた。子どもたちの見る目が変わってきている。

みどころ

クラスで楽しんだ物語の舟作りから始まった「動く舟遊び」。例年5歳児で見られる遊びのように思いますが、「絵本の再現で作った積み木の舟では動かないので、動く舟を作ろう」と発想して遊びが展開しています。さらに、「どうして動くのか」と考え合い、「かくれた力を見つける」ことに結び付いています。このことをきっかけに、身の回りのかくれた力にも興味が広がっています。